

平成 29 年 11 月の解説（週間天気予報）

【11 月の天候状況】

上旬は、低気圧と高気圧が交互に通過しましたが、東・西日本を中心に移動性高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。大陸からの寒気の南下が弱く、南から暖かい空気が流れ込みやすかった北日本と沖縄・奄美では気温が高くなりました。

中旬は、低気圧と高気圧が交互に通過しましたが、11 日は低気圧が急速に発達しながら日本海からオホーツク海へ進み、北海道を中心に大荒れとなりました。また、旬の後半は北日本から西日本にかけて大陸から強い寒気が流れ込んだため、北・東日本日本海側を中心に曇りや雪または雨の日が多くなりました。北日本では広い範囲で積雪となったほか、東日本日本海側を中心に平野部でも雪が降り、山沿いや山間部では積雪となった所がありました。沖縄・奄美では、前線や湿った気流の影響で、曇りや雨の日が多く、日照時間はかなり少なくなりました。

下旬は、低気圧と高気圧が交互に通過しましたが、旬の前半に北日本から西日本にかけて大陸から強い寒気が流れ込み、北・東日本日本海側を中心に曇りや雪または雨の日が多くなりました。北日本日本海側では、日照時間がかなり少なくなりました。沖縄・奄美では、前線や湿った気流の影響で、曇りや雨の日が多くなりました。

月平均気温は、東・西日本で低く、沖縄・奄美で高く、北日本で平年並でした。月降水量は、北・東日本日本海側と沖縄・奄美で多かった一方、北・東日本太平洋側と西日本日本海側で少なく、西日本太平洋側では平年並でした。月間日照時間は、沖縄・奄美でかなり少なく、北日本日本海側で少なかった一方、東日本と西日本日本海側で多く、北・西日本太平洋側では平年並でした。降雪の深さ月合計は北日本日本海側で多く、北・東日本太平洋側では平年並でした。月最深積雪は、北日本で多いところが多くなりました。

【11 月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、例年値^{（注）}より 3 ポイント高い 76%で、中国地方と沖縄地方を除く各地方では例年値以上となり、特に北陸地方では例年値よりも 12 ポイント高くなりました。一方、沖縄地方は例年値よりも 14 ポイント低くなりました。最高気温の予報誤差（2～7 日目の平均）は、全国平均では例年値よりも 0.1 小さい 2.1 で、四国地方と九州北部地方、九州南部地方を除く各地方で例年値以下となりました。最低気温の予報誤差（2～7 日目の平均）は、全国平均では例年値よりも 0.4 小さい 1.7 で、すべての地方で例年値を下回りました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「毎月の精度の例年値」を参照してください。

【1 月の週間天気予報の利用にあたって】

1 月後半から 2 月前半にかけては、1 年の内で最も気温が低くなる時期です。冬型の気圧配置となって強い寒気が日本付近まで南下してくると、西日本の平野部でも気温が氷点下になることがあります。また、冬型の気圧配置が緩んでくると、よく晴れて放射冷却現象によって気温がさらに下がることもあり、低温による凍結などの被害が起こることがあります。

週間天気予報で気温の低い予想が続く場合は、低温に対する早めの対策を取るほか、最新の気象情報にも留意して下さい。